ありばヒューマンドキュメント

トップデフバレーボール選手

[尾塚　愛実]さん

障害者スポーツ分野において活躍されている尾塚さん。「点火セレモニーでは無事に聖火を繋げることが出来てよかったです。」
写真左：東京での聖火リレー　写真右：県庁での出立式

選手と会社員　二足のわらじ

デフバレーとは聴覚障害者によるバレーボールのこと。ルールは通常のバレーと同じで、チームメイトの声、審判の笛などが聞こえない状態でプレーします。

負けず嫌いという尾塚さんがバレーを始めたのは、小学校3年生の時。「ハンデを持っていても誰にも負けたくない、何かにチャレンジしたいと思い、始めました。」とのこと。熱心な指導者のもとで練習し、出来なかったことが出来るようになり、ハンデを持っていても、練習すれば出来るんだと自信を持てたそうです。高校3年生の時に、県内で初めてデフバレーの日本代表選手へ選出。そして19歳の時のトルコデフリンピックで、金メダルを獲得されました。「障害の有無に関係なく、『やればできる、頑張ればいつか夢が叶う』ということをバレーを通して、希望や勇気を与えられるように頑張りたいと更に思いました。」と当時の喜びを語ってくださいました。

高校卒業後は、バレーを続けながら京セラ川内工場に就職。役職につき、工場排水の水質分析や、委員会を開催し、データ集計・資料をまとめ、事業部へ報告などを行っています。ただ入社当時は、学生時代とは違うことも多く、新しい環境・生活に慣れるまで大変だったそうですが、「職場の方々には沢山応援いただき励みになっています。仕事もバレーボールも目標に向かい、楽しく頑張れています。」と現在を明るく語ってくださいました。また、普段から読唇術という方法でコミュニケーションを取っている尾塚さん。ゆっくり分かりやすく話してもらったり、会議では「ライブトーク」という音声を文字起こしするシステムも導入いただいたりと、職場のサポートに感謝されていました。

「一生に一度の体験」聖火式への参加

8月21日、東京パラリンピックの聖火式に尾塚さんが参加されました。「選出の連絡が来たときには信じられませんでした。本当に嬉しかったです。」ただ、コロナ禍ということもあり、参加して良いのか複雑な心境もあったそうですが、「トーチキスはとても緊張してあっという間でした。一生に一度あるかないかの貴重な経験をさせてもらい、忘れられない思い出になりました。」と参加した喜びをお話しくださいました。会場で出会った障害を持っていても明るく元気でとても輝かしい方々に感動したそうです。

今後の夢は、2022年のブラジルデフリンピックへの代表選出と金メダル獲得とのこと。金メダルを首にかけた尾塚さんの姿が待ち遠しいです。

2017年トルコデフリンピック表彰式での一枚。